

## 第4回 瑞浪市市民まちづくり会議

### 会 議 録

日時：平成28年7月1日(金) 午後7時～午後8時45分  
場所：市役所4階全員協議会室

#### 日程

1. 会長あいさつ

2. 協議事項

(1) 協議①

まちづくり全般に関する取組検証

資料 No. 1

3. まとめ

(1) 今年度検証した審議事項について

資料 No. 2

(2) 諮問に対する答申について

4. その他

#### 閉会

#### 【配布資料】

・まちづくり全般に関する取組検証

資料 No. 1

・第1回～第4回までに行った取組推進方針に基づく  
取組の個別検証（まとめ）

資料 No. 2

・瑞浪のまちづくり

資料 No. 3

#### 出席委員

加藤 博之

伊藤 弘典

大野 正博

中山 征治

大森 建生

渡邊 勝利

橋本 孝晴

渡邊 みゆき

中條 貴子

渡邊 京子

欠席委員

工藤 温子

【名簿順 敬称略】

事務局 加藤 誠二（まちづくり推進部長）

兼松 美昭（市民協働課長）

横井 宏之（市民協働課まちづくり支援係長）

事務局 皆さん、こんばんは。ただいまより、第4回瑞浪市市民まちづくり会議を開催します。私は、まちづくり推進部市民協働課長の兼松と申します。4月の人事異動により、鈴木の後任で参りました。初めて顔を合わせる委員さんもお見えになりますが、よろしくお願います。会議冒頭部分のみ、進行役を務めさせていただきます。それでは加藤会長、ごあいさつをお願いします。

#### 1. 会長あいさつ

加藤会長 皆さん、こんばんは。お仕事でお疲れの中、また、暑い中体調に十分注意され過ごされているかと思えます。いよいよこの市民まちづくり会議は4回目を迎えました。1年間の一区切りとなり、これまで審議・協議を重ねてきたことをまとめる段階に入りました。市においては、お手元配布のパンフレット等でまちづくり基本条例のPRをされていますが、なかなか市民には浸透していないというのが現状だと思えます。条例施行後1年という状況では仕方ないことかと思えますが、いかにこの会議を通して市民一人ひとりによりわかりやすくまちづくりのことを伝えていくか、皆さんのお知恵を拝借してまとめあげたいと思えます。本日もよろしくお願います。

事務局 ありがとうございます。本日の会議は、委員11名中10名の出席で、委員の過半数の出席があり、本会議が成立していることを報告させていただきます。この後は、条例に従いまして、会長（議長）に議事を進行していただきます。それでは、加藤会長（議長）をお願いします。

加藤会長 それでは、これより会議を進めて参ります。委員の皆様には、慎重なご審議をお願いいたします。この会議は、会議運営規程により公開の会議となっております。事務局、本日の会議傍聴希望者はあ

りますか。

事務局 本日は、ありません。

加藤会長 本日の会議の傍聴者はないようですので、レジュメに従い進行していきます。

## 2. 協議事項

### (1) 協議①

まちづくり全般に関する取組検証

加藤会長 まず、「2. 協議事項」について、「(1) 協議① まちづくり全般に関する取組検証」について、事務局より説明をお願いします。

事務局 それでは、始めに本日の会議資料の確認をお願いします。レジュメの下段にお示ししておりますが、資料の不足等がございましたら事務局までお申し出ください。

事務局 【配布資料確認、前回会議内容の確認】

加藤会長 ありがとうございます。それでは、「4. 市民、議会及び行政の協働のまちづくりにおける役割と責務」から続けたいと思います。皆さんから出していただいた意見について、事務局に簡潔にとりまとめていただきました。役割やできることなどについて、市民側でも行政側でもどちらでも結構ですが、前回の意見に付け足したいこと、見直して新たにこんなことがあったなどありましたら意見の発表をお願いします。

委員 市民の役割・できることについて、各人が「地域の課題は地域で解決する」ということを念頭にもってまちづくりに取り組まなければならないと考えます。それについて、地域で若干の温度差があるように思いますが、各地域が課題を抽出し、地域でどこまで解決できるのかわかりませんが取り組んでいければよいと思います。

委員 地域によって取組に温度差があるのではないかということでしたが、個人的な印象では周辺部の活動が活発で、市中心部の活動が弱いように思います。いかがでしょうか。

委員 私も同じような印象を持っています。私は周辺部に住んでいますが、自分の住む地域の情報は回覧などで入手できます。しかし、市中心部は区域が大きいいためなのか、参加人数が多いからなのか、イベント情報等が周辺部に伝わってこないのか、正直よくわからないところもあります。

事務局 まちづくり推進組織はそれぞれまちづくり新聞などを発行していますが、配布は地域内だけにとどまり周辺部には行き渡ってはいま

せん。市では、市のホームページに各地区のまちづくり推進組織のホームページのリンクを貼り付けていますが、それ以上に踏み込んだ取組はしていません。

委員 市のホームページの話が出ましたが、関連するところの閲覧数はどうでしょうか。

事務局 本日は手持ち資料がありません。

委員 私は各地域の事業に出席していますが、瑞浪地区は何かを取り組む場合、規模が大きすぎて難しいのだと思います。地区を分割して取り組むなどの方策を検討してもよいのではないのでしょうか。あと感じたことで、8地域のまちづくり推進組織はそれぞれで活動してみえますが、横の連携が弱いと思います。もっと横の連携を強化し、情報共有をしていくべきだと思います。情報交換の場があると、他地域のよい取組を参考にして自分の地域の取組に活かしていくことができるのではないのでしょうか。

委員 温度差ということでしたが、まちづくりが発足してからの年数の差が関係していると思います。古くからある大湫町や陶町と新しい瑞浪地区や土岐地区では、10年以上の開きがあります。現在では、8地域の横のつながりが出てきており、よい状況になっていると感じます。新しい組織は古くからある組織のよい取組を参考にして、真似をしていけばよいと思います。人口の大小については、いずれもやり易さ、やり難さがあると思いますが、よいところを真似していくことが大事だと思います。ホームページの件についてですが、ホームページは常に更新をしていくことが大事だと思います。新しいことを載せて閲覧者の興味を引くことが必要です。稲津町のまちづくりは、ホームページを開設して3年目に10万人、5年目に20万人の来場者を突破しました。全国的に閲覧してもらっています。閲覧者からの励ましをいただくと、ホームページを更新する側も更にやる気が出てきます。

加藤会長 それでは、「4. 市民、議会及び行政の協働のまちづくりにおける役割と責務について」のまとめですが、市民、行政それぞれの立場での情報の発信、工夫という意見が多く出されました。ホームページの活用という部分では、各地区のまちづくり推進組織にホームページがあり、それをどれだけの市民の皆さまが閲覧していただけるのか。そのことにより情報発信が進むと思います。稲津町まちづくりのホームページは国の表彰も受けられたかと記憶していますが、非常に立派な、内容の濃いものになっています。行政の役割として

は、そういうホームページを利用しながら、市全体のホームページからも常に情報発信していただきたいと思います。また、その工夫として委員の皆さんから意見をいただいたフェイスブックやSNSによる情報発信についても検討していただき、まちづくり基本条例のこと、まちづくりのことを市民の皆さまに理解していただくように発信していただければと思います。その他に意見はありませんか。

委員

先ほど、横とのつながり、連携という話がありました但事務局に質問があります。まちづくり関係のホームページの更新については、各地区のまちづくり推進組織やコミュニティーセンターで行われているということでした。市役所の組織を調べてみると、コミュニティーセンターのとりまとめは中央公民館（総合文化センター）が担当の課となっておりますが、中央公民館はまちづくりの担当課ではありませんよね。そういう中で情報を共有しようとなった時、横とのつながり、連携はどのような状況なのかな、と思います。まちづくりのことにに関して、昨年、青年会議所では20代から40代を中心に市民2千人規模のアンケートを実施しました。その結果、横からの情報が入ってこないという回答が非常に多かったです。私も調べてみましたが、中央公民館が何かそういったことをとりまとめている形跡がホームページや紙媒体からはみえてきません。実際にはやられているのかもしれませんが、実は横の連携、情報の共有がされていないのではないかと感じています。市役所内での情報共有をどのようにしていくのか。例えば稲津町まちづくりのホームページが成功しているなら、その成功の秘訣、ノウハウを中央公民館が集約し、他のまちづくり推進組織やコミュニティーセンターも情報共有することが大事なのではないでしょうか。現状では、各まちづくり推進組織と中央公民館が縦割り行政になって連携していないのではないのでしょうか。各地区のまちづくり推進組織、コミュニティーセンター同士の横のつながりをどの様に捉えられているのか疑問です。

事務局

公民館事業は教育委員会が所管しています。コミュニティーセンターには、地区の公民館が併設のような形で運営されています。各地区の公民館事業については、各地区のまちづくり推進組織に委託しているところが多いです。公民館事業とまちづくり推進組織の実施する事業はイコールではありません。まちづくり推進組織の活動の中に公民館事業があるというような形で運営されているのが現状です。コミュニティーセンターが無い瑞浪・土岐・明世地区の公民

館は中央公民館（総合文化センター）になりますが、まちづくり推進組織が公民館事業の委託を受けていないため、まちづくり推進組織の事業はまちづくりの事業とイコールになっています。現在、そのような状況により、情報の発信元がバラバラになっています。ただ、どのような状況であろうと、教育委員会からの情報でも、行政からの情報でも、市民の方にとっては同じ情報であり、まとめて、リンクをさせて発信することが重要です。市のホームページの中では、公民館事業の情報と各地区まちづくりの情報を併せて発信できるような体制を整えています。蛇足になりますが、西分庁舎の情報発信コーナーが開設されました。まちづくりの事業のほか、まちづくりの中の公民館事業についても発信しています。発信の仕方がまだまだ足りないところもあるかとは思いますが、現在、参議院議員選挙期間中であり、西分庁舎の期日前投票所に千人以上の市民の方が投票に足を運んでいただいています。その中で、整備したまちづくりの情報発信コーナーの掲示物等を目に入れていただいています。初めてご覧になられた市民の方から、「こんなことをやっているんだね、知らなかった」という率直な感想もいただいています。市民の方からもまちづくりの情報の発信をしていただけたらと思っています。

委員 行政の役割、やるべきことについて、夢づくり市民活動補助金制度ができました。昨年度、青年会議所は制度を利用させていただきました。この制度を活用したいと思う団体は、潜在的にはまだまだたくさんあると思います。ただ、手続きとして申請書が必要になります。昨年度に制度を利用されたある団体の関係者の方から聞いた話によると、『一般市民の方、企業人ではない方が、企業人と同様に市から申請書の作成ができたか何度も催促された。催促はされるが、その書き方は教えてくれない。市は手伝ってもくれない』という不満でした。始まったばかりの制度ですが、例えば前年度に申請が通った事業の具体例を紹介するなど、申請団体に対し、申請書を作るレクチャーの機会を、支援する場を設けたらどうでしょうか。

事務局 申請書の記載方法について、市へお問い合わせをいただき、そのように感じられた方がみえたことについてはお詫びしなければいけないところだと思います。ただ、市としてはそのようなことはなく、お問い合わせについてはサポートしていくスタンスですので、その方たちとお話をされる機会があれば、よろしくお伝えください。申請書の記載についてですが、現在のところ、レクチャーする場をあ

えて設けることは考えていません。すでに利用された団体からの声、申請団体からのご意見をいただく中で、しっかりと対応して参りたいと考えています。

加藤会長 一般市民からすると「行政は敷居が高い」と感じられるところがあるかとは思いますが。補助金申請など書類作成に慣れていない方が多く、いかに理解していただくかという部分が非常に大切かと思えます。

加藤会長 それでは、「5. 考えられる市民の参画方法について」に移ります。この項目については、これまで協議してきた中で、すでに出された意見と重複してくる部分もあろうかと思えます。事務局には、具体例を記載していただいておりますが、それらについての意見でも結構ですし、その他アイデア等がありましたらご意見をいただきたいと思えます。また、「子どもを対象にした行事を実施すれば、親御さんが一緒に参加してくれるので参加者が増える」といったようなご意見もこれまでにありましたが、関連が深いこともありますので、「6. 子ども及び若者の参加への配慮」についても併せてお考えいただいての意見でも構いませんので、発表をお願いします。

委員 業務の関係になりますが、先日、全国規模の会議があり出席して参りました。テーマは地方創生について、会議には全国の同じような規模の市町村商工会議所から500人くらいが集まり、その中でまちづくりをどうしていくかということについても議論がありました。その中で一番多かったのが、「元気な所にしか人は集まらない」という意見でした。これは、会議全体での意見です。瑞浪市でもいろいろ取り組んでいるかもしれませんが、地域で温度差がでているようにも伺います。個人的には瑞浪市は魅力があるまちだと思っています。全国、ほとんどの市町村において、今後の人口減少は避けられません。まちづくりに積極的に参加する気持ちが大事です。先ほど補助金の話がありましたが、経済の関係では、やる気のあるところ、企画をしっかりとしたところにしか補助金が出ません。昔は皆平等であったが、今の時代は違ってきています。やる気があってもしっかりと内容の企画にしかお金は出ません。国も商工会議所も同様になってきています。各団体はよい企画を市に発信して、事業予算の確保をすることが必要です。

加藤会長 市民が積極的に参加する必要があるということでしたが、現実問題として、どうやったら市民は積極的になれるのでしょうか。

委員 元気がない所に人はこないという話でしたが、逆に元気がある所

にするにはどうしたらよいでしょうか。子どもや若者の参加は必要だと思いますが、それが一番の方法なのかは疑問です。女性の意見をもっと吸い上げてよいのではないのでしょうか。前回までの会議の中でそういう場が別に設けてあるというお話は伺いましたが、十分に声が聞けているかというところではないような気がしています。女性の視点からですと、女性はもっとフランクな場で、例えば井戸端会議の雑談などで、「こういうことに困っている」、「こういうの、いいよね」といったやりとりの中からよい考えやアイデアが出たりします。そういう意見を吸い上げることが大事だと思います。ワークショップの話もありましたが、今まで取り上げられなかった意見や知恵が、そういう機会を通して吸い上げられるとよいと思います。子どもおよび若者への配慮ということで、夢づくりチャレンジ研究室が始まったと伺いました。若者は18歳以上30歳未満ということだそうですが、高校生の子が参加する機会があるのでしょうか。私は高校生の子たちによるワークショップがあればとよいと思います。高校生の子どもたちは地元への愛着が非常に強いです。就職希望の子の9割以上は地元志向です。そういう子どもたちの意見が吸い上げられる機会が無いのが非常にもったいないと感じています。

加藤会長 女性の意見を吸い上げる機会が少ないのではないかとということと、若者の参加について、高校生の意見を吸い上げる機会をとということでした。市として、そのような機会はありますでしょうか。

事務局 高校生に関しましては、昨年度末、市と市内3高等学校と域学連携の協定を結びました。その中で、今後、学生との交流事業を行っていくことを確認しています。チャレンジ研究室についても、現在各高校に研究員の参加を呼び掛けています。すでに一部の高校からは、参加への前向きな返事をいただいています。女性に関しましては、現在のところ、女性限定という場はありません。市議会の関係になりますが、ある地区において昼間の時間に議会報告会を開催したら女性の参加者が多かったという話を聞いています。開催時間に融通をきかせるなど、工夫、検討をしていく必要があると思います。

委員 私の以前の職場では、3年ほど前から女性の参加が取り上げられていました。女性ばかりを集めた理事長直轄で、「なでしこ会議」という会議が立ち上げられました。会議は毎月開催され、女性目線でいろんな意見を出し、それを経営に取り込んでいこうということで始まりました。すごくよい取組であったと思います。市でもそのような取組があるとよいと思います。



委員 参画方法について、一例として紹介します。私の地区ではどんど焼きがあります。地元の福祉委員の方が地域の独居老人の方全員に参加の案内をされました。会場までの交通手段が無い方には送迎もしますと全員に案内をされました。独居老人の方たちは、遠慮もあってか、皆さんに迷惑をかけるといけないとのことで全員がお断りされました。すると福祉委員が、当日、料理その他を会場に来られない独居老人の方全員の自宅に届けられた。参加したいけど参加できない方にそのような対応をされた行動に非常に感心しました。事情があつて参加したいが参加できないという方に、参加した人と同じ効果が得られるような周囲の気配り、そういう参加の仕方ができることを学びました。

加藤会長 雰囲気味わっていただく、関係役員だけではなく、隣近所の方や市民一人ひとりがお互いに気配りすることが大切だと思います。女性の件についてですが、各種団体の代表の方がおみえですが、団体には女性の役員さんはおみえになりますか。

委員 各地区のまちづくり推進組織が公民館から指定管理を受けています。そして、まちづくり推進組織が公民館事業を運営しています。人が集まるように工夫していろいろな取組をしています。その中には母親学級もあります。地区の女性には非常に積極的に活動していただいています。各地区同じような取組をしていると思います。楽しんでやっていただければ継続性も期待でき、女性同士の意見交換も行われ、まちづくりにも意見が上がってくるようになると思います。公民館は指定管理を受けているため、公民館の職員がどれだけやる気を出すかになってくると思います。インセンティブの話になりますが、事業をやればやるだけ指定管理料が上げてもらえるのであればありがたいなと思います。

委員 私は1人目の子の時に母親学級に毎月参加していました。女性は結婚し、知らない土地に嫁ぐことが多いと思います。そういう中で同じような年代の女性と知り合い、女性同士のコミュニティーができて楽しかったし、本当に参加してよかったです。2人目の子は保育園に預けてしまったので、母親学級にまったく参加しなくなりました。私の地域では、社会情勢からか勤めに出る母親が多くなり、母親学級に参加する家庭が少なくなっていると思います。1人目の子の時にできた母親同士のコミュニティーは大事にしていますが、2人目の子からは付き合いが浅くなってしまっています。母親学級の井戸端会議のようなガヤガヤした場所で、男性の姿が見える

ような場所では女性がかしこまってしまうので、コミュニティーセンターの女性の方などに入っただき、「何かしたいことがないか」、「困っていることはないか」、「まちづくりについて何かしたいことがないか」など時々聞かれる環境があるとよいと思います。そのような場であれば、女性は素直に意見が言えると思います。ただ、女性は子育ての時は子育てに必死で、周りを見る余裕がなく視野が狭くなっています。相手から問合せをいただく環境も大事だと思います。与えられたことを楽しむことはできますが、自分が子育てに追われている頃を振り返ってみると、まちづくりのような広い視野で考えたことはなかったなど改めて思いました。そういう子育ての時期の機会であれば、子育て環境の意見などもあったのではないかと思いますし、問い掛けがあればまちづくりも前進するのではないかと思います。

委員　私の地域にはコミュニティーセンターがありません。過去に女性に参加していただくことに大変苦労しました。継続的に評議員になってもらうことが大変でした。そのため、イベントや事業など、どうしても女性の手が必要な事案に対し、その都度委員会に入ってもらって参加をしていただくこととしました。評議員としてではなく、その都度参加していただくという組織の仕方で、現在、システムがほぼ出来上がり、女性の参加者が増えています。評議員や委員の就任は年齢、子育て等を理由に断られてしまいますので、「委員会の中のこの部分を手伝ってください」という依頼方式にして、気持ちよく参加していただいています。地域では、福祉委員は事業の内容からすると女性委員が望ましいと考えています。2、3年前から女性福祉委員を増やそうと取組を行い、2割から3割が女性福祉委員になりました。

加藤会長　コミュニティーセンターが無い地区の母親学級は、中央公民館で行っていますか。中央公民館とのつながりはどうですか。

委員　中央公民館とのつながりはほとんど無いです。母親学級のようなことは地区で独自にやっていると聞いています。中央公民館とのつながりは市全体の文化祭行事くらいです。

加藤会長　中央公民館の在り方について、今後どのように持っていくかということも大きな課題ではないでしょうか。

委員　先ほどの母親学級は、市役所ではどこの部署が担当になっていますか。社会福祉課ですか。

委員　公民館活動になりますね。

- 事務局 所管でいえば教育委員会になります。
- 委員 ハッピーマザスタというイベントを知っていますか。母親支援の活動団体があります。どこかで活動が目にとまったのか、社会福祉課から依頼を受け、月に何度か開催しているという話を聞きました。男性がいない場で女性の意見が出やすい場だと思います。まちづくりにも関連しますが、まちづくりの部署にそういう話が入ってきていない。市役所内の情報共有が上手くなされていないとそういうよい機会があっても情報が拡散していかない。難しいとは思いますが、事務局としては、このような状況を今後どのように解決していけばよいと考えていますか。
- 事務局 いろいろな催しや情報は、まず担当課に情報が入ります。ただ今の例でいきますと社会福祉課には情報が入っていますが、市民協働課では初めて聞く話になります。情報共有は職員間の連携になります。聞いた職員の資質にもよると思いますが、関連がありそうな部署に情報を流すことが大切になります。そういった意味では、職員教育の部分も必要であると思います。情報共有をして、どんどん情報発信をして皆が見えるような状況を作っていくことが課題であると思います。
- 委員 シンクタンク的なものがないと個々で情報を受けるだけで終わってしまわないですか。物事は計画、実行、検証しての繰り返しになると思います。母親学級に提案したらどうか、アンケートを実施してどうだったのか、次はどうか。例えば、稲津の文化活動は評判がよいが、なぜ評判がよいのか検証はされていないと思います。地区にお願いしているから地区にまかせきり。まねることが大事という意見がありましたが、まねるべき情報が所管課に集約されているのか。市民だけがやるべきことではなく、まとめるべき中央公民館がやらないとよい事例が広まらないし、まねることもできない。アンケート結果によると、市の子育て支援の評判はすごくよいです。もっとPRすべきです。しかし、それは小学校に入学するまでの期間限定です。小学校にあがると横のつながりが消えてしまうという意見も多くありました。新たな取組として市民活動補償制度が始まりましたが、公益活動に参加しやすくなったとの声を多く聞いています。市もよい取組がたくさんあるので、もっとPR、情報発信をしていくべきだと思います。
- 委員 市のホームページについてですが、閲覧してみるとあまりリンクが貼られていません。他県、他市のホームページを閲覧すると後援

事業、共催事業、支援団体のリンクなど、たくさんのリンクが貼ってあります。市が情報共有、情報発信をさらに進めるためには、もう少し工夫をされるとよいと思います。

会長 いろいろな意見が出ましたが、「4. 市民、議会及び行政の協働のまちづくりにおける役割と責務について」、「5. 考えられる市民の参画方法について」、主には情報発信の部分が重要ではないかということでした。参加するにも情報が無ければ参加できません。切りがないところですが、行政としてはどこまでやれるのか。行政の立場では情報発信してみえるつもりでもなかなか市民がホームページや広報を見てくれないなど、市民になかなか伝わらないこともあるかと思えます。今後の工夫でよりよい情報発信の方法を考えていただければと思います。

委員 参加、参加という意見が多かったのですが、これが担い手になるかといえばそうではありません。後継者・担い手不足の解消にどういうふうにつないでいくのか。これが非常に難しいです。

加藤会長 参加と担い手不足は違うという意見がありました。これまで、高校生の参加、小・中学生への呼びかけなどいろいろ意見がありました。先日の主張大会でも若者の素晴らしい発表、スタッフとしての働きもありました。若者の参加という部分で、高校生の参加があってもよいと思います。鯖江市ではJK課というのがあるそうです。若者の意見を取り入れるための部署だそうです。高校生が活躍できる場、少子化の波により瑞浪高校が存続の危機にある中で、卒業生が市内企業に勤めて、地元に残り、人口が増えれば一番よい結果ですが、若者の意見を取り入れるような組織、機会があればよいと思います。

委員 厳しい意見になろうかと思いますが、先ほど意見のあった市ホームページのアクセス数というものが非常に重要だと思います。ご参加の委員さんは関心が高い方ばかりなので閲覧されてみえると思いますが、そうではない市民の方がどれくらい市のホームページ閲覧をしているのか。芸能人のものであれ、一般市民のものであれ、ホームページを毎日見るのは新しい、何か魅力があるから見られているのだと思います。市民が市や地域まちづくり推進組織のホームページをどの程度閲覧しているのかしっかりと分析する必要があるのではないのでしょうか。分析結果によりアクセス数が少ないとすると、市民が地域にどの程度の愛着があるのかということになります。つまり、市民がどの程度の危機感を持っているのかということになります。

ます。ある市では、市職員の中でも危機感の薄い方が非常に多くみられました。その市は、近隣市より土地価額が安く、名古屋のベッドタウンとして人口が増えています。市の職員は「人口が増えているから問題ないでしょう」と言われていましたが、昼の人口と夜の人口が全く違います。土地が値崩れしている状況です。危機感をあまり持っていない人が多かったため、会議などの場で積極的に駄目だしの意見をして、今は市民の考え方も変わってきています。瑞浪市民自体がどの程度の危機感を持っているのか、今後持っていくのだろうか。厳しい言い方、意見になるのはこの部分で、それがなければ当然なのですが、すたれていくだけの話になります。結果は将来必ず出ます。「今、頑張っています」と言っても、結果がすたれていけば、そうではなかったということになります。今後、かなりの競争が必要になってくるのではないかという気がします。前回委員会においても、交付金制度についてもコメントしましたが、交付金制度もルーティーンでは駄目だと思います。「それぞれの地域がそれぞれに頑張っているから均等で分ければよいでしょう」では駄目です。むしろ、これからは「平等」でなければならないです。より頑張っている地域には、より手厚いフォローをしていくということが重要であって、「均等で分けることが平等ではない」ということをきちんと理解していただく必要があります。次に人口減少についてですが、全国的に今の若者は地元に残りたいという意識が非常に強いです。昔は家から出たい、地元から出たいという志向が強く、大学進学もその契機になっていました。ここ最近の中・高校生の子に話を聞くと家庭の居心地がよく、地元から出たくないと思っている子が多いです。これが良い・悪いは置いておいて、この場合、瑞浪市には残るだけの魅力があるのかどうかを併せて考えなければならないということです。先のことですが、今のところの試算では、10年後には人間のできる仕事は今の4割減、20年後には6割から7割減になるといわれています。これから更にコンピューター、機械化が進み、ロボット発達が進みます。その時に瑞浪市に残る魅力があるのか、仕事があるのか。無ければ瑞浪に残りたくても出ざるを得ない。そういう状況を今の段階から考えておかなければいけない。人口が減ってからどうしようといっても遅いです。減ってから巻き返そうと思ってもなかなか巻き返せない。今、減っているといっても、まだ数がある今のうちにどういう手を打つかを真剣に考えないといけません。委員の皆さんは瑞浪市の魅力をよく知って

いるので、どのように発信していくか。今の世代からすると情報が非常に重要になります。市民がいかにかホームページに参加していくかということになります。ホームページのアクセス数が多いところは、写真や動画が多く毎日のように更新されているところです。瑞浪市でしか撮れない写真や動画を公開していけば、魅力はどんどん広がると思います。それが瑞浪市に行ってみたいにつながると思います。取組として動画コンペをやるのもよいと思います。それに対してのアクセス数で評価をすることにより、全体のアクセス数を上げることにつながります。有用なものに関してはリンクを貼ることも非常に重要になってくると思います。市役所にも人の限りがあり、全てが市役所や地域でできるかといえば、決してそうではないです。上手にリンクを活用するのも一つの手段です。若者や女性の意見の吸い上げについては、ワールドカフェを開催するのが有効です。私の関わっている他市でもワールドカフェを開催したところ、参加者からの評判は非常に良かったです。ワールドカフェとは喫茶店の雰囲気、あるテーマについて議論しましょう、というものになります。他市では男女、世代を超えての共同参画社会、仕事の仕方等についてテーマとして開催したところ、非常に良い評価を全員からいただきました。瑞浪市の魅力を再発見する、地域にはこんな良いものがあるなどの情報を共有して、それをどう拡散していくのか考えるのがよいのではないのでしょうか。今日の委員皆さんの意見を聴いて、そう感じました。「今、頑張っているからいいでしょう」という時代ではないです。どれだけの危機感をもって、どう他の地区よりも先駆的にやっていくのかが生き残り対しては必要かなというところが感想です。

委員 市のホームページはいかにかにもお役所的だと思います。写真、動画もほとんど無く、市民に伝える文字情報はたくさんあるが、少しは遊びの要素があってもよいのではないのでしょうか。各まちづくりのホームページは若干くだけているので、そちらへ誘導するような方法や、その他うまい方法を使って、堅い部分の他に柔らかい部分を取り入れていただきたい。

委員 市のホームページには、よい情報もたくさん載っていると思います。アクセスしてもらわないとよい情報は拡散しません。知ってもらうために誘導する仕組みが必要です。もう一工夫期待します。

委員 一昨年だったか、リニューアルされてからは見やすくなったと思います。

委員 関心がある人は見ていると思いますが、関心が無い人も見  
たくなる工夫を期待しています。

加藤会長 それでは、本日出された意見について事務局にてとりまとめてい  
ただき、次回会議において配布をしていただきたいと思います。事  
務局においては、今回が任期の最後となられる委員さんがおみえに  
なるようでしたら、後日郵送をしてあげてください。よろしくお願  
いします。

### 3. まとめ

#### (1) 今年度検証した審議事項について

加藤会長 続いて、3. まとめについて、(1) 今年度検証した審議事項につ  
いて、事務局より説明をお願いします。

事務局 それでは、資料No. 2をご覧ください。本年度、皆さんに審議  
事項としてご検証いただきました取組について、評価シートでいた  
だいた意見を中心に取りまとめさせていただきました。表面に評価  
点、自由意見とコメントについて、裏面に市民の役割・できること、  
行政の役割・やるべきこと、新たな取組提案・アイデアという項目  
でまとめてあります。これらを基に、「まとめ」の欄で簡潔に集約さ  
せていただきましたが、市では、いただいた意見を活かしながら施  
策や各種取組の改善を進めてまいりたいと考えております。たくさ  
んの貴重なご意見をいただき、ありがとうございます。5つの取  
組検証について、一つひとつとりまとめ報告をさせていただくのが  
本来だとは思いますが、会議時間の都合もありますので、本日は個  
別の報告を割愛させていただきます。お時間があるときに是非ご一  
読いただき、他の委員さんのお考えや意見等を確認していただけれ  
ばと思います。

#### (2) 諮問に対する答申について

加藤会長 ありがとうございます。続いて、(2) 諮問に対する答申につい  
て、事務局より説明をお願いします。

事務局 **【答申のとりまとめ手法について説明・提案】**

加藤会長 ありがとうございます。ただいま事務局から、(2) 諮問に対す  
る答申について説明をいただきました。第1回目の会議で市長から  
受けた諮問については、1点目が運用について、もう1点が取組に  
活かされているかについての検証を、ということでした。これまで  
4回の会議において審議・協議を行い検証して参りましたが、その

まとめを行い、後日、市民まちづくり会議として市長に答申します。事務局より会長および副会長がこの会議を代表して、という提案がされましたが、このことについて皆さまからのご意見はありますか。

委員 「異議なし」

加藤会長 それでは、事務局に本日の協議結果も含めて整理をしていただき、私が代表して答申内容の確認をさせていただきたいと思いますので、委員の皆さまにはご了承をお願いします。また、後日改めまして、私と副会長がこの会議を代表して、市長への答申をさせていただきますのでよろしくお願いします。

#### 4. その他

加藤会長 続いて、4. その他について、事務局よりお願いします。

事務局 【アンケート協力のお礼】

加藤会長 それでは、今回がひとまず1年間の区切りということになりますので、加藤まちづくり推進部長より一言いただきたいと思います。加藤部長、よろしくお願いします。

加藤部長 【総括とお礼】

加藤会長 ありがとうございます。委員の皆さま、1年間ありがとうございました。この会議は、委員の任期が2年で半数が毎年入れ替わる形になります。明確な区切りが難しい所もありますが、協働のまちづくりを進めるため、大変重要な役割を担っています。任期を終えられる委員さんも先ほど事務局より話がありましたが、まちづくり基本条例のこと、協働のまちづくりのことについて、行政のみがやるのではなく、我々市民も参加していかなければならない役割もっております。今後も、この会議の委員での経験を活かしながら、地域で広くまちづくり基本条例のことを周知していただきますよう、よろしくお願いします。

副会長 皆さんお疲れ様でした。私は青年会議所からの推薦という形でこの会議に参加させていただきました。次回会議からは、新しい者に代わるかもしれません。青年会議所では、様々なまちづくり活動を展開しています。この会議には協働という名のもとに、皆さん参加されたことと思います。検証を行ってききましたが、それが活かされないこの会議の存在意義が無いものになってしまいます。委員皆さんの貴重な意見が今後どのような形で活かされていくのか。我々市民は応援していますし、いろんところで協力、支援をしています。市の職員の方も頑張ってください。それでは、以上を持ちま



して、第4回目の瑞浪市市民まちづくり会議を終了したいと思います。  
お疲れ様でした。

(閉会)